



研修員報告

龍田エウエリン香織

1 来日前に期待していたこと

2009年に留学生として1年間高岡市で過ごしたことがあります。その頃経験した楽しい日々と日本の企業を少しも実感したくない思いがあり、新しい目線で見たい山を見たいと思っていました。

私は大学(工学部土木科)を卒業後、7年間建設品質管理で働いていましたが、今回の研修では土木分野の中で経験したことのない公共インフラの施工、設計に関する会社で研修できればと期待していました。母国の経済状況では、これから先いつまでも同じ仕事ができる保証はないので、できるだけ視野を広め、どんな会社でも働けるようになる必要があると前から思っていました。

前回富山にいた頃、北陸新幹線はまだ計画中でした。2015年に開業されたとき、絶対乗りたいと思っていました。風景が変わっているのだからと想像していました。来県して初日に富山駅のフロントを見て「天々くったなあ」と、思わず口に出しました。

2 研修について

安達建設株式会社の本社は南砺市城端にあり、上平に支店と生コン工場が設置されています。

研修期間に「天々立」(京都府)にて社内旅行で日本三景「天々立」(京都府)にて

3 富山での生活

研修期間に住んだアパートは南砺市中央町にあり、駅やイオンモールに近くとても便利な所でした。南砺市は平らな街並みで、気楽に自転車でどこへも行けました。春のチューリップは見られませんが、秋に咲いたコスモスを愛でることができました。

南砺市の城端は静かな町で、あちらこちらに田んぼが見えます。町中の人が作り上げたお祭り「むぎや祭」は台風の際がある中でも輝いていました。

4 帰国後の研修での体験を母国に伝えること

現在母国の経済・政治状況はあまり良いとは思えません。研修期間の経験を活かしたいと思えます。

視野を広げ、できれば近い将来、身につけた日本語能力も役に立って仕事に就きたいと思えます。

そして、土木技術以外に、ブラジルで日本と富山のイメージを広めたいと思えます。引き続き、在ブラジル富山県人会でお手伝いし続けていきたいです。先輩として、次の世代の研修員や留学生たちの指導などのお役に立てれば幸いです。

5 研修を終えて富山の皆さまに伝えたいこと

富山県庁国際課、とやま国際センター、富山南米協会、安達建設の皆様には心から感謝しています。ありがとうございました。何度お礼を言っても言い足りないと思えます。

これからの国際交流を進めてください。ブラジルにいらした際にはどうぞお気軽に声をかけてください。城端の親戚、龍田家の皆様、いつもお世話になっております。心強いサポートをありがとうございます。今後もお役に立てるよう、頑張りたいです。皆様とまたいつか出会うことを楽しみに待っています。

メットにユニフォームは水色のワイシャツ、作業をする労働者たちは灰色のヘルメットにカーキの作業服、重機オペレーターは灰色のヘルメットと紺色の作業服を着用していました。文化や歴史の色々理由は言われていますが、日本で見つけた統一感は何となく良い感じがすると思えました。



五箇山地方で二つの工事を学ぶことができました。世界遺産の「首沼集落」のすぐ近くの水道管の設置工事の見学では、合掌造りの様子を見ながら作業の手伝いをしました。お昼休みには観光もしました。舗装の面積計算のためにいやいや材料品質管理のために



全員同じ作業服 研修中強く印象に残ったことは、社内の従業員たちが、社長から研修員まで全員同じ作業服を着ていることでした。ヘルメットのカラーもみんな同じ白です。同じ服装はチームがひとつになるような感じがします。5年前に働いていたブラジルの施工企業では、リーダーたちは白いヘル



寺院の工事 ブラジルでは寺院が少ないので、このような建築現場に出られることは全くないので、7月城端に来て寺院「城端別院善徳寺」の現場で手伝うことになりました。歴史ある建物で色んなリフォームが行われていました。床の掃除をしたり、畳を運んだり、大工さんの作業を見学したり、お寺の中を歩きながら改築された部分の説明などを聞いたりました。



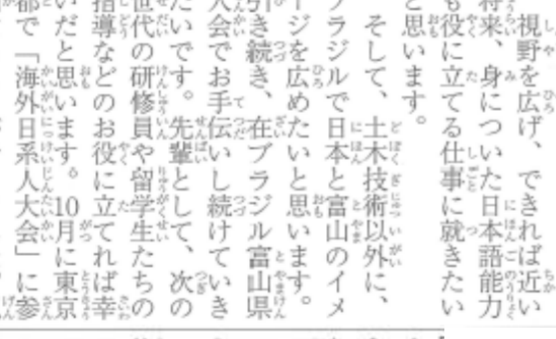
現場と机上業務 また、各現場の監督、先輩方には、とてもお世話になりました。土木や施工に関する質問はもちろん、日本文化や日常的なことについての疑問も丁寧に答えていただきました。



JRで通勤 毎日JR城端線の電車に乗るが、南砺市に住み南砺市で研修を行ったので、各地の見学や名所をできる限り見回り、一度に二つの市を堪能することができてとても良かったです。



井当と富山のブリ 研修先では、手作りのお弁当を食べました。自分で作ったご飯はそんなに特別なものではないのですが、周囲の人たちはなぜか珍しがって「今日は何?」と聞かれました。会話の話題にもなりました。

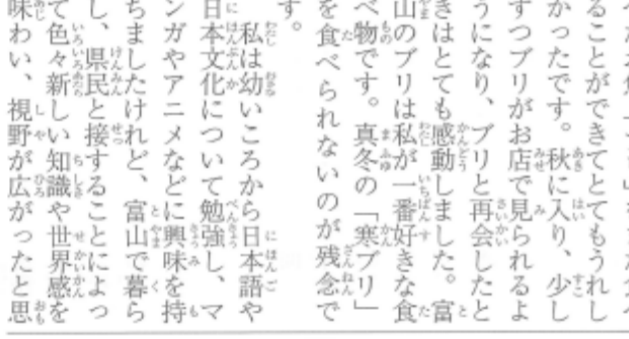


4 帰国後、研修での体験を母国に伝えること 現在母国の経済・政治状況はあまり良いとは思えません。研修期間の経験を活かしたいと思えます。

リーダーと労働者 ブラジルでは服装が違うように、社員が行う作業にもかなり違いが見られます。例えば部長やエンジニアが自ら掃除やコンクリートの打ち込み、重機の操縦などをするのはあまりありません。そのような「雑用」と言われるような作業をするために雇われる労働者がいるからです。肉体よりも頭を使う、それがリーダーの役割というイメージを強く感じるので、個人的にはリーダーは労働者たちの立場や作業をある程度理解しなければ務まらないと思



季節の変化 六月の下旬に着いた時、日本は夏に入りかけていたのに八月までは暑い日々を過ごしました。こんなに暑かったのかしらと思うくらいでした。湿度が高く、汗だくになって作業を行い、かなり集中力が下がるのを感じました。サンパワロの暑さは比べ物にならない時期でした。夏にはい



5 研修を終えて富山の皆さまに伝えたいこと 富山県庁国際課、とやま国際センター、富山南米協会、安達建設の皆様には心から感謝しています。ありがとうございました。何度お礼を言っても言い足りないと思えます。

